

日本文化研究(日常生活史)Ⅰ

科目ナンバリング CUA-201
選択 2単位

高久 舞

1. 授業の概要(ねらい)

この授業では、年中行事を通じて「日本文化」の多様な側面に関する基礎的知識を習得した上で、文化伝統の継承と発展に寄与するための専門的知識を有し、多方面でそれを活かすことができるようになることをねらいとする。

民間に伝わる「しきたり」「ならわし」などとも呼んでいる日本文化がある。これらの「しきたり」「ならわし」の中で、受講生たちが日々生活する中で自然と行なっている年中行事について具体的に講義し、民俗学の基礎知識と研究法を理解する。前期はひな祭りから始めて、お盆までの行事を中心とする。学期末には、前期の授業で扱った年中行事のうち一つ選び、自分の家の年中行事についてフィールドワーク(家族から聞き取り調査)を行ない、多方面でそれを活かすことができるようにする。

2. 授業の到達目標

- ①民俗学の研究対象を説明できる(知識・理解)
- ②日本の年中行事の内容や意味について、説明できる。(知識・理解)
- ③自分の家の年中行事について調べ、まとめることができる(理解・意欲)

3. 成績評価の方法および基準

- | | |
|-----------------------|-----|
| (1)リアクションペーパー(到達目標①②) | 30% |
| (2)課題レポート(到達目標②③) | 70% |

4. 教科書・参考文献

参考文献

赤田光男、香月洋一郎、小松和彦、野本寛一、福田アジオ編 講座日本の民俗学6 時間の民俗 雄山閣出版
宮田登 暮らしと年中行事 吉川弘文館
小川直之 日本の歳時伝承 角川ソフィア文庫

5. 準備学修の内容

以下のような準備学習課題を課します。

- ・参考文献を通読し、授業内容の理解を深める。
- ・自分が経験している年中行事について、調べてみる。
- ・両親や祖父母が経験した年中行事について聞き取り、レポートにまとめる。

6. その他履修上の注意事項

3月から8月に行われている年中行事についてメディアやネットでも積極的に情報を集める。とくに、自分の家の年中行事、地域の年中行事について関心を持ち、自らの体験と授業内容を引きつけることで理解度を深める。

7. 授業内容

- | | |
|--------|--------------------------------|
| 【第1回】 | 民俗学とは一身近な事柄を資料とするー |
| 【第2回】 | 民俗学の方法論ー時間と空間ー |
| 【第3回】 | 日本の年中行事の構造 |
| 【第4回】 | 春の年中行事①ーひな祭り |
| 【第5回】 | 春の年中行事②ー磯遊び |
| 【第6回】 | 春の年中行事③ー花見 |
| 【第7回】 | 初夏の年中行事①ー端午の節供 |
| 【第8回】 | 初夏の年中行事②ー御柱と祇園祭 |
| 【第9回】 | 農耕儀礼と年中行事 |
| 【第10回】 | 夏の年中行事①ー半夏生と土用 |
| 【第11回】 | 夏の年中行事②ー七夕 |
| 【第12回】 | 夏の年中行事③ー盆行事I |
| 【第13回】 | 夏の年中行事④ー盆行事II |
| 【第14回】 | 保育園の年中行事 |
| 【第15回】 | 【オンライン】まとめとレポート提出
※7月28日に実施 |